小さなオフィスのニーズに応える

起業家支援という視点も

▶「the SOHO」より（左下も）

りといったサービスを行ってくれるので、細々とした事務作業に煩わされる心配がない。ロビーエントランスではビリヤード台とライブラリーがまず目を引く。もちろん、事務所や自宅で事業を営む事業者」の総称といえる。ただ、インターネットや電子メールを利用している場合がほとんどなので、「ITを活用して事業活動を行う小規模事業者」といった方が実情に近い。

日本では90年代の中ごろ、ティブな職種に従事している人間という含みがかつてはあった。

だが今では不動産の物件情報などで「SOHO向け」というフレーズが使われることも珍しくなく、端的に小規模事業者の総称と考えて差し支えないといえるだろう。実際、SOHOオフィスに入居するテナントとしては、創業間もないベンチャー企業、NPO法人、地方に本拠を置く企業の東京支店、会計トが魅力を感じるSOHOオフィスとはどのようなものだろうか。

「コストをかけなくても魅力あるSOHOオフィスをつくることはできます」と話すのは、SOHO支援を行う特定非営利法人フラウネッツ理事長でインターネットサイトAllAboutのSOHOガイドをつとめる宮田志保氏だ。

「IT環境などは当然として、簡単にできそうなところでは、ポスト回りを充実させるという方法があります。自宅を事務所した場合に困る点の一つに、郵便物が増えてプライベートのものと区別がつかなくなることがあるからです。また、事業を営んでいることが外から見て分かりやすいことも重要だと思います。例えば看板がつけられたりするとなお良いでしょう」

とはいえ、事務所として使う以上立地は重要になってくるように思える。

「確かに立地は良いに越したことはありません。ただ、クリエイティブ系の仕事をしている人の中にはあえて田舎に事務所をもって畑いじりを楽しむという方もいます。これは稀なケースかもしれませんが、立地が悪くても個性のある物件であれば入居したいと考えている方は意外に多いはずです」

▲広い部屋である必要はない

た「シルクセンター」くの創業を遂げたウハウをもとにしー内の旧シルクホ実績を残すことがて相談に応じていテルは、坂倉順三できましたが、ビます。

SOHOマンションとは

アーデント

代表取締役
渡邊 賢氏

当社は「SOHOスナビ」を運営しています。SOHOオフィス・SOHOマンションは、初期費用が安いことと内装がきれいなことが挙げられる専門にあつかう不動産会社で、オンラインでの物件検索ができる口にSOHOオフィスといっても、レンタルオフィス、リノベーション物件、SOHOマンション、事務所可マンション、小規模事務所などさまざまなものを含みます。中でも数が最も多く、人気が高いのがSOHOマンションと我々が呼んでいる物件です。SOHOマンションが通常の事務所可マンションと何が違うかといいますと、事務所契約ではなく住宅契約が一般的で、かつ築年数が浅いのが特徴です。もちろん通常の事務所可マンションでも成約につながることはありますが、その場合には駅から至近距離にあるとか、保証金を低く抑えているなどの個性が必要だと思います。